

【第一号案】  
2018年度事業報告・  
決算報告剰余金処分案承認の件

2018年度は全事業で供給高が前年を上回り、組合員さんへ0.24%の出資配当を行うことができました。総代会で報告された内容を一部抜粋してご紹介します。

西日本豪雨などの自然災害に対して

西日本を中心に被害をもたらした7月豪雨災害では、浸水被害や道路寸断、商品の欠品など私たちのくらしに大きな影響を与えました。共済訪問活動、道路を迂回しての商品お届けのほか、この被害に対して緊急募金を呼びかけ、650万円を超える組合員さんの善意が寄せられました。

周防大島の大島大橋事故による断水、交通規制

10月に発生した大島大橋貨物船衝突事故では、交通規制や1ヶ月を超える断水がありました。通常の配達トラックが橋を渡れない時は、営業用の軽バンや軽トラックで対応し、組合員さんへ商品をお届け。「きちんと届けてもらい感動した。災害に強い生協を実感しました等、喜びの声をいただきました。

ことと新下関店をはじめお店の損益改善

昨年4月に移転オープンした新下関店と、県内の5店舗ではくらしに寄り添った取り組みをすすめて、前年を超える供給高となり順調です。地域の組合員さんも店内で試食活動を行うなど、様々な場面でお店を盛り上げてくれました。

【第二号案】  
2019年度事業計画案・  
収支予算案承認の件

くらしに寄り添う事業や運動を推進していく原動力は「人・組織」です。2019年度は、人・組織づくりをすすめると共に、「コープSDGs行動宣言」にもとづき、商品や事業、組合員活動を通して皆さんと一緒に「SDGs」※1やエシカル消費の普及をすすめていくことを総代会で確認しました。内容をピックアップしてご紹介します。



※1：世界で生きるすべての人々だけでなく、未来の人々も安心して生活し続けられるために必要な17の目標。  
つながらずぐりぐりや「人・組織つながらず」のための宅配手数料を見直し

くらしに寄り添う事業や運動を推進していく原動力は「人・組織」です。

安心・元気にくらしを地域社会にぐりぐりへの参加

くらしの安心は、平和であることが前提です。平和な世界を次世代に継承していく活動として、今年度は自治体首長・被爆者・市民と一緒に、ピースフォーラムを開催しました※2。また、各市町との行政懇談会などを通して、地域のいきいきとした活動をもっと広げていきます。

※2：ピースフォーラムのご報告は10月のコープレターに掲載予定です。

【第三号案】  
役員選任の件

今回、役員の変更が承認されました。新理事会は岡崎理事長をはじめ、今後も組合員さんの声を受け止めながら、掲げた目標をすすめていきます。よろしくお願いたします。

なお、16年間理事長から会長を歴任された有吉博さんが退任されました。総代会では、ご挨拶の中で長年支えてくださった組合員さんへの感謝を述べられました。



2018年度  
事業報告と配当の概要  
(2019年3月末現在)

組合員数	20万4,076人 (7,013人の純増)
供給高	195億7,000万円 (計画比99.3%、 前年比104.7%)
経常剰余金	2億円を確保。

● 出資配当

組合員全員への当期出資配当率は0.24%です。  
※「年度出資配当通知書」は、7月1回〜2回のカタログと一緒にお届け。宅配以外をご利用の組合員の方には7月下旬に郵送にてお届けします。

● CO・OP 共済事業利用

共済加入組合員の方への「割戻通知書」のお届けは、本年分の「共済掛金払込証明書」と一緒に9月中旬頃、郵送いたします。

右記のように報告いたします。組合員のみなさまの利用結果にご協力ありがとうございます。  
生活協同組合  
コープやまぐち理事会

【出資配当お問い合わせ】  
01200495657  
【共済お問い合わせ】  
01200389431

## 被爆者支援と平和への想いを継承する

# 一般財団法人 山口県 原爆被爆者支援センター ゆだ苑

「子どもたちに平和な未来を」という組合員さんの願いから、コープやまぐちでは平和活動に取り組んでいます。今回はゆだ苑の事務局長である坂本さんのお話や、実際にゆだ苑を訪問した組合員さんの声をご紹介します。

## ゆだ苑とは

全国の原水爆禁止運動が混乱状態に陥った1963年に「被爆者センター」を建設し、県内被爆者の支援運動と核兵器廃絶に向けた平和運動を推進しようとの声が高まり、被爆者県内大学生・学生・平和団体・宗教家などが推進役となって、1968年5月に福祉会館「ゆだ苑」が完成しました。イデオロギーや宗教宗派、思想信条などの違いを全て乗り越えた被爆者支援および平和を求め人々の会館建設への取り組みは、当時「山口方式」と呼ばれ、全国の注目を集めました。



▲第1回ヤマグチ被爆死没者追悼・平和式典(1975年)。

## 「平和の大切さや命の尊さ」を伝えていきたいです

(一財)山口県原爆被爆者支援センター  
ゆだ苑 事務局長 坂本由香里さん

### 被爆者支援だけでなく 継承活動を行っています

発足当時は被爆者支援を主として行っていました。現在のゆだ苑では、被爆者や被爆二世の休日検診や援護法相談だけでなく、被爆者の高齢化に伴い、さんコープ(※1)のケアマネージャーさんと提携して介護の相談も承っています。また、毎年、山口のヒロシマデー(9月6日)に行う慰霊式典や語り部さんを迎えた講演会、商業施設での遺品展・パネル展など、被爆体験の継承や、被爆者の想いを伝える活動にも力を入れています。近年では山口県立大学と協力して被爆体験の記録や保存も行っています。



ます。「再び被爆者をつくらないために、平和の大切さ・命の尊さを知ってほしい」という被爆者の強い想いを子どもたちにも伝えていきたいです。そのためにもゆだ苑の資料室を子どもたちが学べる場としてのリニューアルを計画しています。また、日本語だけではなく、記録を英訳で残す活動も行なっています。

ゆだ苑は資料の貸し出しや、見学のご希望があれば休館日でも開放



▲展示品や、子どもたちが平和への想いをされています。

## ここカフェinゆだ苑

「平和を学ぼう! 私たちができること」

7月6日、山口市・防府市の組合員さん親子17名がゆだ苑を訪問。幼い頃に入市被爆した林三代子さん(山口県被爆協)から、市内の悲惨な光景とその後の差別、不安や苦悩をお話いただきました。「幸せは当たり前ではありません。だから毎日感謝して生きています」と語る林さん。子どもたちも熱心に耳を傾けました。

また、ピースサポーターの横田さんからは、核兵器を取り巻く現状をお聞きし、林さんのような思いをする人がいない未来をつくるために、一人ひとりができることを考えました。



▲見学の様子。

人の遺骨を収骨。1974年に「原爆死  
者之碑」が建立されました。以降、9月6日  
を「山口のヒロシマデー」とし、原爆死没者  
の慰霊と平和の誓いを行っています。

1995年に老朽化のため福祉会館ゆ  
だ苑は廃館となりましたが、跡地に建設  
された「自治労会館」にて現在も「支援」  
「相談」「平和」  
の3つの柱を  
軸に被爆者  
支援と平和  
活動の推進に  
取り組んでい  
ます。



▲自治労会館の1階がゆだ苑の事務局。

### コープやまぐちとの関わり

**1986年**  
コープやまぐちの組合員から県内被爆者  
へ膝掛けを贈呈(以降毎年実施)

**1993年**  
コープやまぐちからの寄贈本を基に「平  
和文庫」開設

**2002年**  
山口のヒロシマデーでどうもん店(山口  
市前アーケードに折り鶴展示)以降毎年  
実施

**2009年**  
ゆだ苑を中心にコープやまぐちでも募金  
活動を行い「非核三原則の貫徹と核兵器  
廃絶を誓う碑」建立

**2011年**  
「第36回生協ま  
つり」にて「原爆  
と人間」パネル  
展実施(以降毎  
年参加)



▲非核三原則の貫徹と核兵器廃絶を誓う碑(山口市宮野江良)。

### 励みになっています

私自身もコープの組合員で、ゆだ苑の  
活動に携わる前からコープの平和活動は  
少し知っていましたが、子どもがいるお母  
さんたちの願いである「安全・安心」と繋  
がっているなと思っていました。

コープは職員さんだけでなく、個人の  
組合員さんもゆだ苑の活動や被爆者の方  
を応援してくださっているのが、とても嬉  
しいです。毎年ゆだ苑に送っていただいで  
いる膝掛けも被爆者の方に喜ばれていま  
すよ。また、ピースフォーラム(※2)など  
平和を願う方々が集まってその想いを共  
有する場があるこ  
とは、いろいろな  
方の想いもお聞き  
することができ、  
活動の励みになっ  
ています。こうい  
った活動はゆだ苑だ  
けではできないの  
で、みなさんのご  
協力をありがたく  
思っています。



▲昨年の膝掛けお渡しの様子。

### ゆだ苑にぜひ見学に行きましょう

終戦から74年。被爆者は年々高齢化し  
ていますが、当事者にとつて常に記憶は蘇  
り、決して過去のことではありません。語  
り部さんの中には今でも当時を思い出し  
て、涙を流しながら語る方もいらっしゃい

するので、興味  
を持った方は  
お気軽にお問  
い合わせくだ  
さいね。

お子さんは、  
被爆された方だけでなく自分のお父さん  
お母さんやおじいちゃんおばあちゃん  
など、今自分が生きている時代より前がど  
んな暮らしだったのかを聞いてみてくだ  
さい。そこから戦争に関わる時代のこと  
やその世代を生きた人たちのことに、興  
味を持ってもらえたら幸いです。



▲ゆだ苑のロビーには当時の遺品  
込めて描いた絵画などが展示

### 行事予定

#### 第45回山口原爆死没者追悼・平和式典

9月6日(金)9時から  
場所：原爆死没者之碑前  
(山口市宮野江良1丁目)

#### アピール活動

9月7日(土)10時から12時  
場所：どうもん店前  
(山口市道場門前1丁目1-18)  
ゆだ苑活動紹介や募金呼びかけを行  
います。

※1：コープやまぐちの中の任意団体「高齢者協同  
組合さんコープ」を出発点に、介護保険にも対  
応できる独立した法人格をもつ福祉生活協同  
組合。  
※2：戦争・被爆体験を若い世代に引き継ぐため、自  
治体首長・被爆者・市民が一緒になって開催す  
るイベント。今年は7月25日に開催。

### お問い合わせ

(一財)山口県原爆被爆者支援センター  
ゆだ苑  
083-922-4185  
山口市元町3-49  
休館日：土曜・日曜  
▲ホームページ



**参加者の感想(アンケートより)**  
「山口市にこのような展示があること知り  
ませんでした。身近に平和学習出来る場な  
ので、もっと広く知ってもらいたいです」  
「人に優しくしてあげながら、みんなが仲  
よくすること。差別やつらい思いをたくさ  
んされていたのに、優しくお話しされた林  
さんの言葉がすごく重みを感じました」  
「今日は話を聞いて戦争の苦しさかわかり  
ました。戦争はおこしたくないと思います  
(9才)」  
「原はくはともひどくて人々をくるしめ  
ていく。世界にはぜったいあってはいけない  
ものだということがわかりました(11才)」

### 平和活動もSDGsの一環

SDGsとは、国連が掲げている「誰一  
人取り残さない」社会の実現を目指す。現  
在世界で生きる人々だけでなく、何世代の  
先の人々が安心してくらし続けられるた  
めに必要な17の目標のことです。目標16  
「平和と公正をすべての人に」という項目  
があり、コープが長くに渡り続けている平  
和活動もSDGsの一環です。

「くらしの安心」は、平和な世界があつて  
こそ。子どもたちや孫の世代まで平和な未  
来を残していくことは、組合員さんと生協  
の共通の願いです。これからも、一人でも  
多くの人が平和について考え行動してい  
けることをめざし、組合員さんと一緒に平  
和活動に取り組んで  
いきます。この夏、ぜ  
ひご一緒に身近で  
できることを考えてみ  
ませんか。



# 3.11を忘れない...みやぎ生協コープふくしまから宮城・福島のいまをお伝えします

「まちづくりコミュニティ」  
 「多様なチャネルを活用して、  
 居場所を見つけられる街に」  
**宮城県東松島市野蒜まちづくり協議会**

野蒜駅の改札を出ると、広場の向こうに野蒜ヶ丘の新しい街並みが広がっています。

津波で甚大な被害を受けた東松島市野蒜地区では、多くの世帯が近くの山林を開いて造った高台へ集団移転しました。2017年10月にはまちづくりが行なわれています。

野蒜まちづくり協議会(以下まち協)は、住民参加のまちづくりを目指し、野蒜ヶ丘の3自治会や東名・大塚など旧市街地の5自治会と協力しながら、様々な事業に取り組んでいます。

移転にあたって課題になったのが「コミュニティ形成」でした。まち協会長の菅原節郎さんは、「野蒜ヶ丘は震災前のコミュニティを活かす形で移転した」とや何度も話し合いを重ねたことで、「この街でこの人たちが暮らしていくんだ」という気持ちで醸成された。移転後も自治会ごとにイベントを開催し、それがコミュニティの活性化に役立っている」と話します。

最近では野蒜ヶ丘の分譲地を買って移り住む若い世帯も増えてきました。一方、災害公営住宅や旧市街地を中心に高齢化も進んでいます。

まち協副会長の山縣嘉恵さんは「自治会のイベントに参加できない人もいます。そうした人々を含め、住民の地域での居場所づくりがまち協の役割になる」と話します。

同じくまち協副会長の佐賀剛さんも「地域全体のあり方を考え、若い世代が住みやすい街づくりや人材育成が大切になってくる」とこれからの見す

えます。

まち協では、昨年度開催した地域づくり勉強会や若い母親のためのママカフェを、今後行う予定です。「ママカフェは市民センターの交流スペースを活用し、お母さんたちが子どもを遊ばせながらお茶を飲んだり、保健師さんや保育士さんに子育てについて相談したりする場」と山縣さん。地域づくり勉強会も「野蒜の街を知り、地域を担っていく人材を育てていくためのもの。今後外部から講師を呼ぶなどして学ぶ機会をつくりたい」と(佐賀さん)と積極的です。

菅原さんは「すべての住民が自分の役割や出番があるような街にしたい」との思いを抱いています。「そのためには人と人のつながりが数多くあった方がいい。自治会などの交流だけでなく、ママカフェや勉強会、趣味のグループなど様々なチャネルを活用して、自分の居場所を見つけたい」。

もともと住民同士の付き合いが活発だった野蒜地区には、「コミュニティの心となる助け合いの習慣が今も根付いています」。

まち協の住民参加のまちづくりは、そうした故郷の財産を活かしながら、今後も進められていきます。

※2019年3月21日、みやぎ生協はコープふくしま・福島県南生協と組織合同しました。本誌のタイトルも「被災地のいま みやぎ生協・コープふくしまから宮城・福島のいまをお伝えします」に変え、福島県の現状についてもお伝えしていくようにいたします。

野蒜まちづくり協議会の皆さん。左から副会長の佐賀剛さん、会長の菅原節郎さん、副会長の山縣嘉恵さん。



▲震災後、高台に移設されたJR仙石線野蒜駅。広場のすぐ先に観光物産交流センターや市民センターがあります。

## (一社)やまぐち食の安心・安全研究センター報告 6月

一般社団法人やまぐち食の安心・安全研究センター生協検査部門では、生協独自判定基準に従って、宅配・店舗・夕食宅配取扱商品の抜き取り検査等を行っています。



### 【微生物検査】

宅配商品86検体のべ282項目(一般生菌数/大腸菌群/大腸菌/黄色ブドウ球菌/サルモネラ属菌/腸炎ビブリオ/クロストリジウム属菌)

1検体1項目のコープやまぐち基準超過あり、取引先に改善指導。

店舗商品20検体のべ70項目(一般生菌数/大腸菌群/大腸菌/黄色ブドウ球菌/サルモネラ属菌/腸炎ビブリオ)

1検体1項目のコープやまぐち基準超過あり、取引先に改善指導。

※その他、夕食宅配47検体のべ144項目の検査を実施。

### 【理化学検査】

生協不使用添加物、成分分析等の検査:宅配商品2検体のべ5項目。結果はすべて良好。

残留農薬検査:宅配商品29検体のべ6,351項目、店舗商品12検体のべ2,628項目。結果は、すべて良好。

※その他、夕食宅配4検体のべ876項目、その他の依頼37検体のべ8,029項目の検査を実施。

■詳しい結果はホームページで月次報告中。

## コープ子育てひろばのお知らせ

子育てひろばは赤ちゃん・未就学児を対象にした、出会いの場・ふれあいの場です。

参加予約は不要。いつ来ていつ帰ってもOK ただし、気兼ねなく使っていたため、光水熱費やドリンク代、保険の一部として利用料1家族1回100円をいただきます

催し物は特にありません。

絵本やおもちゃなどの遊び道具はありますが、基本的にノンプログラムで、のんびりくつろげ、自由に過ごせる空間を提供する場です。

先輩お母さんのスタッフさんがサポートします。

専門家ではありませんが、子育ての悩みなどに対して、経験を聞いたりすることで気が楽になることもきっとあるはず。

今月の

日程 10:30~13:30(周東・岩国センターは10:30~13:00)

8/8(木) 「とくやま店組合員集会所」(周南市)

次回

9/5(木)

8/9(金) 「萩センター組合員集会所」(萩市)

次回

9/13(金)

8/27(火) 「はあもにい〜」(小郡駅前) (山口市)

9/9(月) 「岩国センター」(岩国市)

8月は

お休み

9/10(火) 「周東センター組合員集会所」(田布施町)

8月は

お休み

9/19(木) 「厚狭センター」(山陽小野田市)

8月は

お休み



お問い合わせ: ☎ 0120-27-5520

※ホームページでは会場の地図も掲載しています。